

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091601239		
法人名	社会福祉法人 平和の聖母		
事業所名	グループホームメゾンマリア		
所在地	福岡県久留米市津福本町字草場272-1 (電話)0942-35-8777		
自己評価作成日	平成 29 年 11 月 1 日	評価結果確定日	平成 30 年 1 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お一人おひとりに寄り沿った個別ケアの実現に向け、全居室に睡眠、呼吸、体位状況を随時把握できる見守りシステムを導入している。日々の体調管理や転倒リスクの回避に繋げ、ご利用者、スタッフ双方の安全で快適な生活環境を整備している。併設施設と連携し災害時の避難経路の確保、管理栄養士と協力し栄養バランスと彩りにこだわった食事は、形態や嗜好を始め細やかな個別対応を実践している。建物は中庭を挟み、彩り豊かな木々は四季の移ろいを楽しめる。リビングには大型のシステムキッチン、床暖房と二重床構造を採用し、居室には陽射しが差し込む出窓と収納スペースを設けている。各ユニットの多目的室は、お一人での有意義な時間、ご家族の面会宿泊等に活用している。また、開かれた事業所として、多様な地域支援にも積極的に取り組み、有益な社会資源としての活動を継続中である。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 11 月 28 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は鉄筋コンクリート造りの二階建ての建物で私鉄主要駅や幹線道路に近く利便性良い場所にある。内部はよく手入れされた中庭が四方から望め、明るいうリビングや多目的室、幅広い廊下など、各利用者が好みに応じた過ごし方ができるような空間が準備されている。開設から一年、職員が一丸となって、利用者を尊重した個別支援を理念として、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。また内外の意見やアイデアを活かし、家族や関係者と共に地域に根差した事業所として運営に努力している。研修は年間計画に基づき行われ、職員の業務上必要な知識や技術の習得を目指している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務に入る前にそれぞれが唱和し、定期的な理念に関する職員研修（年2回）を実施している。理念の通り利用者一人ひとりをかけがえのない存在としてケアを提供し、安らぎに満ち溢れた生活の実現に繋げている。	事業所の理念は基本方針として具体化され、毎朝の唱和と内部研修で職員に共有されている。内容は地域密着型の事業所であることと、利用者の尊厳を大事に安心できる場所作りを目指したものになっている。利用者の思いや状態の把握に努め、利用者本位の支援を行うなど、理念の実現に向けた取組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	開かれた事業所として、個人団体問わずボランティアの受け入れを積極的に行っている。地域交流、地域をメインにしたイベントとして、夏祭りやバザーを実施し、幅広い年代の方に参加していただいている。自治会や地区社協と協力的いきいきサロンやキッズクラブ（子ども食堂）にも参加している。	事業所は学生ボランティアを受け入れたり、保育園児との交流も行っている。地域行事であるいきいきサロンや子ども食堂が同法人内で行われ、事業所も参加し、地域と良好な関係作りがなされている。更に、散歩時の近隣住民へ声掛けを行うなど、地域住民が事業所に気軽に立ち寄れる関係が築かれるよう努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々のケアや認知症に関する研修等を通して共通認識を深めている。事業所職員が認知症キャラバンメイトとして、地域包括支援センターと協力し、認知症サポーター養成講座の実施や地域の認知症支援推進に向けた支援機関として活動している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の参加者が平均20名程度となっており、多様な視点による意見をいただける機会となり、サービスの在り方や今後の事業方針の参考になっている。継続して取り組むことができるよう、今後は意見に対する結果報告も行う場としていく。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者や家族、自治会長、行政職員など20名ほどの参加がある。会議では利用者へのサービスの現状からリスクマネジメント報告、評価への取り組みの報告も行っている。出席者からはサービスや外出先の提案もあり、できる限り意見や提案を取り入れるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設1年も満たないことから、事業運営を進める中で疑問等がある場合には、その都度確認することとしており、より適正なサービス提供に繋げている。運営推進会議では、事業所の実情も直接確認できる機会となっており、必要に応じて助言等を求めることとしている。	事業所は行政に施設基準や介護計画の作成について相談をしたり、行政からは入居申し込みに関しての連絡や相談を受けるなど、日常的に連携している。また認知症サポーター養成講座に携わるなど、行政とは協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修によって理解を深めると共に、身体拘束廃止に関する指針の整備や月1回の会議では発生状況の有無について報告することとし、全体で高い意識を持つよう努めている。環境面ではメイン玄関は施錠せず、構造上も開放感を実感できるよう常に日光や外気が差し込む工夫を施した造りとしている。	外出傾向のある利用者には、職員が付き添い、自然な形で対応している。事業所は身体拘束しないケアを目指して、内部研修の充実を図り、職員はスピーチロックを含む具体的な行為を意識して、日々のケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議での発生状況等の確認や地域包括支援センターの職員を招いての研修を定期的実施している。接遇面での意識を高めることができるよう、内部外部問わず積極的に参加を促進し、言葉と行動は一つであることを念頭に、日常からの言葉遣いにも気を配っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を活用されている利用者もいることから、関係者とは常に連絡を取り合いながら支援している。事業所全体を通して、制度内容に関する知識が豊富であるとは言い難いため、今後はさらに理解を深めることができるよう研修の機会を設ける必要がある。	権利擁護に関する制度については、契約時に家族に説明されており、玄関にパンフレットが準備されている。全職員を対象にした研修は今後行われる予定であるが、職員は成年後見制度の利用者を通して、制度の理解を深めるように努めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容について丁寧に説明しながら進め、項目毎に適宜不明な点等について確認するよう努めている。内容の変更については、随時覚書等にて対応し、必ず説明の上書面にて同意を得るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のケアの場面やコミュニケーションから、利用者の要望を把握するよう努めている。特に意思疎通が困難な方については、表情や目線、身体の動きの変化を通して潜在的な要望を察知できるようにしている。法人内には有識者による第三者委員会を設け、定期的な委員会を通してそれぞれの立場から助言等を得ている。	運営会議や日常的に出された家族や利用者からの要望は、外出の希望などケアに関することが主で、個別ケアに反映されるよう努めている。また第三者委員窓口の案内は契約時に行い、ポスターは事業所の出入り口の目につきやすいところに掲示されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員面談に限らず、随時業務や就労に関する意見、要望、様々なアイデアを吸い上げ、日々の業務に反映させている。ユニット会議も定期的実施することで、随時情報共有を図りながら業務再編に繋げている。	管理者は、年に2回の個人面談を設けて職員の意見や要望を聞いている。その他、ミーティングや折に触れて、事業所運営、行事やケア方法について職員の意見を聞くなど、事業所は職員の意見を多く反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションの維持向上に寄与できるよう、管理者等との定期的な面談を実施し、職員個々の考えや今後の展望を把握している。手厚い診査項目での健康診断、職員旅行や有給休暇でのリフレッシュ、キャリアパス規程に則った正規職員への昇格や子育て支援に向けたシフト調整等も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたり年齢や性別を問わず、熱意や姿勢を重視し、それぞれが持つ個性や能力をいかんなく発揮できるような雰囲気作りに取り組んでいる。役職者についても同様で幅広い年齢層や性別を問わず配置することで、全職員が目標や希望を持続できる組織風土の醸成に繋げている。	職員の募集や採用は法人が行い、年齢や性別を不採用条件にしていない。開設時からの採用者が多く、採用後は介護経験者を中心となり各々が能力を発揮でき、職員が働きやすい職場環境を作っている。またキャリアアップや資格取得への配慮もなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員研修や外部研修を通して、倫理観を始め専門職としての責務や姿勢について定期的に学ぶ機会を設けている。人権擁護意識の確立に向け、利用者本位の視点や職員間の良好な関係性を組織全体で造り上げていけるよう日々取り組んでいる。	内部研修は全ての職員を対象とし、高齢者の人権や虐待防止に関する研修の機会を確保している。また職員は日常的に利用者の基本的人権の尊重に関する意識を高めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には一定の研修期間を設け、事業所の方針やケアの在り方を習得できるようにしている。様々な内容の内部研修の実施や外部研修への参加を促進することで、知識の習得に努めている。特に内部研修では、スタッフ自身が講師となる機会を設け、発信力の向上や自分自身を振り返る機会となっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所主催のイベントや意見交換会等に参加することで、不足部分の発見と業務の改善に繋げている。同業者だからこそ共感できる事柄もあり、連携した取り組みが不可欠のため、更に幅広いネットワークを築き、単発的でなく関係性継続できるよう取り組む必要がある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはご家族やケアマネージャー、医療機関などのソーシャルワーカーから情報収集した上で初期の関わりを設けている。話しを伺う姿勢や受容と共感を意識し、時間配分にも配慮しながら互いにリラックスした雰囲気を心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本的には直接顔を合わせて話しを伺うこととし、利用者や家族の関係性についても可能な限り情報収集している。身だしなみや表情、声のトーンにも気を配ることで、まずは安心感を持っていただくことを意識し、無理強いせず家族のペースで相談していただけるよう時間にも余裕を持って対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	相談内容と本人及び家族の現状を照らし合わ せ、必要なサービスの見極めに努めている。 状況に応じて併設事業の専門職にも助言等を 求めることで、より幅広い視点でニーズを捉 え、具体的な支援内容に加えて多様なサービ スや社会資源の活用も提案している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	ユニットで勤務職員を固定し、馴染みの関係 を築ける環境にしている。共同での取り組み を積極的に行うことで、新たな発見や職員自 身を知っていただく機会とし、互いに信頼し 合える関係性の構築に繋げている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	毎日複数の家族の面会があることで、関係性 も家族によっては顔なじみになっており、随 時支援の方向性を共有する機会にもなってい る。居室に限らず、多目的室を設けたこと で、それぞれの目的やスケジュールに合わせ た時間を過ごすことができている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	長い付き合いで関係性ができているかかりつ け医への受診や馴染みの美容室等に継続して 行けるよう支援している。ユニット内では、 家族に関することやこれまでの生活につい て、日常の会話の中で思い出していただける ような流れを作っている。	入所時のアセスメントから馴染みの人や場の 把握をしており、毎日の生活の中でも利用 者・家族から話を聞くようにしている。また 利用者の馴染みの美容室の利用やかかりつけ 医の受診の支援を行い、地域との関係が継続 できる取り組みを行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡しをすることで利用者同士の会話 や活動のきっかけ作りや円滑な関係性の構築 に繋げている。それぞれの個性を理解し尊重 し合う言葉や行動も垣間見える。今後も相互 理解が深まる工夫を重ね、支え合える生活環 境を整備していく。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	現在のところ上退所事例は無いが、高齢の家 族もいらっしゃるため、随時フォローできる よう、家族の生活環境も適度な距離感で把握 していく。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員目線でのアセスメントや心身状態の把握にならないよう、職員全体が利用者一人ひとりの生活歴や個性をしっかりと把握することとしている。今後は、そこから普段関わりを通して、潜在的なものも含め多様な意向を汲み取る技術が必要となる。	アクティビティ計画書、傾聴ボランティア、回想法などを活用し、利用者の声や希望の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者や表現が難しい利用者に対しては職員が居室でゆっくりと話を聞き、家族の面会時に協力してもらい情報得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	心身に関する情報と併せて、自宅等で使用していた生活用品等を知ること、本人のこだわりや暮らし方の把握に繋げている。より馴染みの暮らしを実感できるよう、就労経験や子育て等、多様な社会経験を重ねてきたこと念頭に、その時代に合わせた環境整備にも取り組みたい。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	単に一日を過ごすのではなく、個々の心身状況を把握することで、できることできないことを見極め自立支援に努めている。安全面を過度に意識し過ぎるあまり、有する力が減退しないよう、他の専門職との連携や検討を重ねていく必要がある。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり、本人と家族の意見や意向を確認し、主治医や関係機関からの助言も組み合わせて計画に反映させている。担当者は計画作成の経験が豊富とは言えないため、研修や経験を積み重ね、より幅広い視点で意向を捉えられる実践力を養う必要がある。	月1回のモニタリング以外に職員全員で情報収集を行い、介護計画に繋げている。介護計画作成には家族の参加もあり、かかりつけ医の意見も反映されている。定期的見直しは3か月～6か月で行い、退院時など状況状態の変化があった時は随時行い、ユニットミーティングで介護計画内容の共有をしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については専用のソフトを基本に利用者や事業所のカラーに合わせた内容に適宜変更することとし、ユニット毎に専用のノートも設置することで、円滑な情報共有や意識の統一化、介護計画の見直しに繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりの中で利用者個々が持つ夢や要望を把握し、状況に応じて随時対応している。家族についても面談時や運営推進会議等での意見を参考に実現する方向で進めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人団体問わずボランティアを積極的に受け入れ、音楽活動や回想法を取り入れることで、日々の活動では得られない一面や豊かな表情を引き出すことができている。今後も継続することに加え、更なる地域資源の活用に向けた活動が必要となる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選定は本人及び家族の希望に沿うこととし、受診を支援している。かかりつけ医へは事前に相談、連絡体制を依頼することで、状況に応じて受診できるよう支援している。	利用者・家族の希望により今までのかかりつけ医の受診を支援している。定期通院時には職員が付き添っている。受診結果報告は電話連絡をその都度行い、状態の変化があった時はかかりつけ医から直接家族へ連絡をもらうなど、情報の共有を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携する訪問看護ステーションと日常の状況を共有できるよう、共通の記録を使用、管理している。また、訪問の際は適切かつ効率的に伝達できるよう互いに案を出し合いながら連携体制の向上にも努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループ法人が協力医療機関であるメリットを活かし、主とした入院機関になることを踏まえ、日常からMSW等との交流や意見交換に取り組んでいる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する説明を丁寧に行い、意向確認を行っていく。今のところ看取りに携わったことはないが、その方らしい最期を支援できるよう、スタッフの意識の共有を図り、かかりつけ医や訪問看護とも連携していく。家族の心情にも配慮した関わりや宿泊、休息できるスペースを確保する等の準備体制を整備しておく。	重度化・終末期について対応方針は明文化されており事業所ができる支援については利用開始時に家族等へ説明を行っている。今後、利用者や利用者家族の意向を尊重した終末期の支援ができるように、職員全員を対象に看取りの研修や死生観についての研修を行う予定にしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、かつ定期的に訓練を実施することで、発生時に適切に対応できるよう取り組んでいる。法人全体で普救救命講習を定期的に行い、実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	鉄筋コンクリート造による高い耐火性能をもと、非常災害時のマニュアル整備や定期的な防災訓練を通して、初動の重要性、適切な避難誘導方法を把握、併設施設との効果的な連携体制を構築している。グループ法人間での応援連絡体制の更なる整備と地域との協力体制の構築に努める。	防災マニュアルを作成しており、消防署の協力を得て法人で年2回の訓練（夜間を想定した訓練を含む）を行っている。地域住民の参加もできている。施設独自には月1回の防災訓練が行われ、消火器の使い方や初期消火の方法などを訓練している。非常用備品や食料は備蓄されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を定期的を実施することで、言葉と行動は一つであることをスタッフに浸透させている。一つひとつの声かけは、ゆっくりと丁寧に視線を合わせ、排泄介助や入浴介助では、本人のペースや安全面に配慮しながら、スタッフの位置取りにも気を配っている。	排泄誘導は声掛けを個別に行いさりげなく対応をしている、介助時はできる所はしてもらうようにリスクを考えながら距離を持って対応をしている。入浴時はドアの開閉や肌の露出に注意をおこない、ゆっくりとした丁寧な言葉使いで声掛けを行い人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての利用者が有するニーズ全てを表出できているとは限らないため、潜在的ニーズも引き出せるよう、日常の関わりを重ねることで、言葉に限らず表情や声の違いを通して把握していく。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定されたスケジュールにこだわらず、本人の表情や食欲、活気等の変化を察知し、その状態に合わせて一日を過ごしていただいている。昼夜問わず本人の意向を尊重し、安らかな生活に繋げている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃の衣類は本人が選んだものを着用できるようにしており、理美容についても本人の希望を伺いながら依頼することで、日常生活の中もおしゃれを楽しんでいただけるよう心掛けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	立位保持が困難でも調理できるキッチンを取り入れている。準備や片付けでは、職員と同じエプロン等を着用することで、一体感の創出を図っている。四季折々の食材を積極的に使用し、彩りに富んだ食事を提供することで視覚的にもこだわりを持つようにしている。	管理栄養士による栄養バランスの良い食事が同法人の調理室から提供されている。食事の準備や後片付けは職員と利用者が一緒に行っている。週に1、2回のおやつ作りや日曜日の昼食作りには利用者が一緒に調理し、畑で育てた野菜を食卓に出すなど、食事が楽しみとなるような支援を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎回記録に残し全体で確認を行っている。必要に応じて併設施設の管理栄養士へ相談し、その状態に合わせた栄養補助食品や食事形態の変更等を柔軟に行っており、タイミングや時間帯を考慮しながら声かけを行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前には必ず口腔ケア及び義歯洗浄を実施し口腔環境の清潔保持に繋げている。義歯の不具合や噛み合わせの不快感は食欲低下等を招くことを念頭に、協力歯科機関との連携を密に図っている。ブラッシングは磨き残しが多い部分をサポートし、本人の能力の維持に繋げている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄状況やパターンをチェックし、タイミングや声かけもその日の状況に合わせて行っている。自立した排泄や不快感の軽減に向け、おむつ着用を基本とはせず、トイレの設置場所を工夫し設備も充実させている。	利用者の目線や動き、排泄チェック表を活用して誘導を実施している。リハビリパンツから布パンツとパットへの変更や「ねむりスキャン（睡眠状態が確認できる）」の活用で適したパットの選定ができています。個別的な声掛けや誘導によりトイレの場所が分からなかった利用者がトイレで排泄できるようになったケースもある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による苦痛は生活意欲全般の低下を招くことから、排泄チェック表を用いて随時状態確認を行っている。水分摂取や食事メニュー、運動も工夫して取り組むこととしている。必要に応じて個別に乳酸菌ゼリーを活用し、自然な排便に繋がるよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	日々の入浴時間は余裕を持たせ、本人の希望に沿ったタイミングで提供している。設備面でも単体のシャワールームやシャンプー台を設置することで、その時の気分や要望に合わせた提供が可能となっている。どのような身体状態であってもゆったりと浴槽に浸かれるよう、複数スタッフでの介助や福祉機器を活用した介助を実践している。	夜間も含めて入浴は毎日対応できる準備をしている。平均して週3回の入浴が実施できている。入浴拒否があった時は時間や対応職員を変えて声掛けを行い、シャワー浴やシャンプー台を利用した部分浴の実施も可能である。季節の入浴剤を使用したり、肌に優しい石鹸を使用して、利用者がゆっくりと入浴ができる支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の快眠に向け、日中はできるだけ活気をもって過ごしていただくこととしている。眠りスキャンシステムにて睡眠覚醒状況や睡眠の質を把握することで、休息を促すタイミングを見計らい声かけを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は必ず説明書を通して、副作用等を確認している。誤薬は重篤な状態を招く危険性があることを十分理解し、分薬は服薬カレンダーにて、セット後の二重チェックと提供前のスタッフ2名以上での声出し確認を徹底している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充実した日常に向け、食事の準備を始め家事や環境整備等への役割を持っていただけるよう取り組んでいる。趣味活動もその日の気分や状態に応じて選択できるようにし、マンネリ化しないよう内容も随時追加している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出行事の他に、公園への散歩や事業所周辺の散策を行っている。併設施設のイベントへの参加を通して他者と交流する機会を設けることで、開放的な活動を促進している。今後は馴染みのある場所や思い出の場所の外出や家族も同伴できる機会を設けていきたい。	天候や体調に寄るが、外出希望のあった時は施設周辺の散歩を職員としている。外出行事を月に1回行い、外食や買い物をしている。可能な時は、定期受診時の帰りにドライブをすることも。今後は家族地域の協力を得て普段行けない場所への外出の検討も行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、品物の選定から支払いまで本人のペースで行えるよう支援している。管理方法や家族への報告は徹底できているが、大切さを理解する場面が多いとは言えない。頻度や金額面を家族とも相談しながら、品物を選ぶ楽しみや使い方を意識できるよう取り組む必要がある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会にお見えになる家族が多いため、電話での関わりは多くはない。ただし、本人や家族の希望がある際はその機会を設けている。手紙やメッセージについても、本人の意向を伺いながら居室内に掲示する等の支援を行うことで安心感に繋がっていると思われる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部からは中庭を臨める構造としており、日光や吹き込む風を通して、五感で四季の移ろいを感じ取れるようにしている。室内における壁紙や家具類についても、落ち着いた色の色合いと統一感を意識している。	利用者の居室とリビングは中庭を挟んだ設計になっている。リビングは利用者と職員が一緒に作った季節の貼り絵があり、窓も大きく開放感があり日当たりもよい。光の強さの調整やテレビの音や職員の声もちょうどよく居心地良く過ごせる空間になっている。共用部分でのトイレの数も多く、浴室も明るく清潔感がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等の共用部とは別に、多目的室を設け、独りの時間や家族等と思い思いの時間を過ごせるよう家具類も整備している。今後はニーズに合わせて本棚の設置や思い出の品が設置できるよう計画中である。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む備品等については、特に制限は設けず、使い慣れた物や馴染みのものを主に落着ける居室の整備を心掛けている。清掃もこまめに行い、24時間換気と併せて清潔な空間を保持している。出窓や室内外の収納も充実させ、必要なものが手に届きやすいよう工夫している。	利用者の桐たんす、テレビ、ぬいぐるみ、家族の写真など馴染みの品が持ち込まれている、特に制限はなく受け入れができています。使い慣れた湯呑茶碗など日常品も持ってこられ日々使用して、利用者が安心して過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体に利用者の動線を考慮した手すりを設置し、共用部と居室間の廊下にベンチを設けることで自力歩行のサポートに活用している。全てのトイレが空間に余裕を持たせ、手すり等の設備を充実させることで自立した動作補助に活用している。ベッドサイドには可動式のサイドバーを設置し、自力での移乗や立位の補助として活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時の唱和に加え、定期的な理念に関する職員研修（年2回）を実施することで専門職としての意識を浸透させ、利用者一人ひとりをかけがえのない存在として敬いながら、豊かな生活の実現に向けた支援に繋がっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民や地域の学生ボランティアを積極的に受け入れ、近隣の保育園との交流や地域交流を目的とした夏祭りやバザー、総合防災訓練を実施している。地区社協と協働で地域住民向けのいきいきサロンやキッズクラブ（子ども食堂）にも参加し、多世代との交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常のケアの実践から認知症の理解を深め、職員が認知症キャラバンメイトとして、地域包括支援センターの認知症推進員と連携し、地域向けの認知症サポーター養成講座を予定している。併設施設の地域住民向けのサロンに出向き、認知症予防に関する講話等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告事項等に関する検討はもとより、本人、家族、行政、地域包括支援センター、自治会を含め毎回平均20名程度の参加者となっており、多様な視点かつ活発な意見をいただける場となっている。それらを状況に応じて実践することで、サービスの向上に繋がっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営基準等に関することは随時連絡、相談することでより適正な運営に繋がっている。また、運営推進会議での助言や市町村主催の研修への参加を通して関係性を構築し、事業所の実情が伝わりやすくなるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時や職員全体研修を始め、身体拘束廃止に関する指針を整備することで理解を深め、必ず月1回の会議にて発生の有無について報告する場を設け、意識を高めている。既存施設との接続部以外はユニット間を行き来でき、自由に思い思いの場所で過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないことがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議での発生状況等の確認や地域包括支援センターの職員を招いての研修を定期的実施している。接遇面での意識を高めることができるよう、内部外部問わず積極的に参加を促進し、言葉と行動は一对であることを念頭に、日常からの言葉遣いにも気を配っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容等については、契約時の説明に限らず適宜相談に応じている。今後、制度を活用される方へより適切に支援ができるよう、研修の参加や地域包括支援センター等の外部機関との連携を図り、職員研修を実施予定である。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書は時間を要するものの細部に渡り説明し納得していただきながら進めている。項目によって伝わりにくい部分は、時折例を交えることとしている。各項目の中途変更、特に経済的な負担に関することは、文書と口頭による丁寧な説明を踏まえて同意を得ることとしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については日々の関わりから把握し、家族等からは面会時や運営推進会議を通して意見を集約している。外部窓口は運営適正化委員会や保険者、法人内の有識者による第三者委員を示している。第三者委員には定期的にそれぞれの立場から助言等を得ている。より開かれた窓口となるよう、各ユニット用にご意見箱を設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は福祉経験者と未経験者が混在しており、それぞれの価値観や姿勢も異なることから、定期的に職員面談の機会を設けている。混在しているからこそ、型にはまらない斬新なアイデアも頻出しており、柔軟に取り入れている。定期的なユニット会議を通して、小さな気づきもしっかりと集約できると取り組む必要がある。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	風通しの良い組織と関係性が良質のサービスに繋がるため、定期的な個人面談を実施している。給与水準も一定基準を保持できており、有給休暇等によるリフレッシュの推進、法人負担による比較的手厚い退職共済制度への加入や子育て支援等、安心して長く勤めることができる環境を整備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢性別を始め知識やスキルの有無ではなく、意欲や前向きな姿勢を重視した採用を推進している。職員個々の柔軟な発想を現場の中でも積極採用し、やりがいある職場環境の構築に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員研修や外部研修を通して、倫理観を始め専門職としての責務や姿勢について定期的に学ぶ機会を設けている。人権擁護意識の確立に向け、利用者本位の視点や職員間の良好な関係性を組織全体で造り上げていけるよう日々取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりが貴重な人材であることを念頭に、内部外部研修の実施と参加を推進し、外部の事業所との接点の場を設け適度な刺激を受けることでし、着実なスキルアップに繋げている。自分自身の今後の在り方やキャリアアップを想像できるよう、法人内では幅広い年代の役職員を配置している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業者団体や地域包括支援センター主催の意見交換会等に積極的に参加することで、刺激を受けながらケアの手法を理解することができ、ネットワークの構築と共に新たな支援展開にチャレンジする機会となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の基本情報を可能な限り把握し、非言語コミュニケーションを意識した上で初期の関わりを設けることとしている。場所や座席の配置にも配慮し、一度に全てを把握しようとせず、本人や家族から要望を引き出せるような雰囲気作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にとっての心の拠り所となれるよう、常に受容の姿勢で相談に応じている。家族にも個性があることを念頭に、相談を受けながら表情や口調の変化にも注視し、主訴を迅速に把握することで関係性の構築に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	必要なサービスの提供に向け、本人の心身状 況、家族の思いや意向を確実に把握すること としている。職員主体の見解や内容に偏りが ないよう、他職種からの意見や助言を得るこ とで、より客観的な視点での支援展開に繋げ ている。今後は社会資源の把握と情報提供に も取り組む必要がある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	主体性を重んじた関わりができるよう調理や 洗濯等に限らず、自家菜園の栽培から収穫、 学生や園児等との多世代に渡る関わり、食事 イベントに関わることで喜びや楽しさ、 一体感を分かち合える機会を設けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	本人に対する思いに共感し意向を共有するこ とで、関係性も徐々に築くことができている。 本人の安らかな生活が家族にとっての安 心感に繋がるため、面会時のみのコミュニ ケーションに限らず、日々の生活状況や変化 についても適宜報告していく必要がある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	併設事業の利用者との関わりや友人の面会を 通して昔を懐かしむ場面が時折見られてい る。いきつけの美容室やスーパー等への外出 を支援し、住み慣れた地域との繋がりの確保 に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支え合う場面や日中の会話も頻 繁に聞かれており、互いを尊重し合いながら 生活することができる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	開設時期の都合上退所事例は少ないが、退所 後も家族と連絡できる関係は継続している。 入院の際には本人のみならず家族との面会す る機会を極力設け、サービス以外での相談に も積極的に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントや直接の聞き取りに限らず、普段の何気ない会話や家族とのやり取りを通して本人の意向を汲み取り、それらをスタッフ間で共有することで、連携しながら実現に向けて行動している。今後はそれが適切であるのかを満足度調査等を通して評価することも求められる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活全般に係る情報について、本人以外にも家族を始め前任のケアマネジャーや施設関係者からも得ることとしている。生活環境の変化によって生じる状態の変化に柔軟に対応できるよう、書面以外の細部に渡る情報収集に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	漫然と日々を過ごすのではなく、適度な刺激や生活意欲が高まる働きかけを繰り返している。そこから得られる些細な変化を職員間で共有することで、新たな提案やその方に合った過ごし方に繋げている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を始め家族や関係者を交えて検討する場を設け、内容についても多様な意向に沿ったものとしている。それぞれのユニットの計画作成担当者が互いの計画をチェックしながら、他職種からの情報も組み入れることで、偏りのない内容になるよう努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については、利用者や事業所の特徴に合わせて実践に反映しやすい形式にしている。ただし、実践の振り返りや見直しに活かしかけているとは言いがたいため、今後はそれらを意識しながら、端的でスムーズな意識とケアの統一に繋げていく。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内にサービスに関する担当制度を設け、各担当者が責任を持って常に生じるニーズに適切に対応できるよう取り組んでいる。その方らしさを実現するために、家族や併設事業の協力を仰ぎながら食事や入浴の日常生活の在り方も、既存の枠に捉われないサービス提供を実践している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区社協や教育機関を始め、地域の社会資源と協力することで、イベント等をはじめとした活動を通して、活気溢れる生活環境となっている。地域や外部との関わりは、生活意欲の向上に繋がっているため、更なる地域資源の発掘と活用を推進していきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望に沿えるよう随時意向確認を行うこととし、必要に応じて時には変更する等、柔軟に対応し安心して医療を受けられる体制を整備している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携する訪問看護ステーションとは共通の記録を使用、保管することで情報の統一化を図っている。状態の変化は昼夜問わず相談することとしており、特に夜勤帯においても利用者、職員双方が安心できる環境を整備している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関する治療方針や退院に関する協働はもとより、費用に関する内容も把握しながら家族や医師、ソーシャルワーカーと連携して早期退院の実現に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に丁寧に説明し、意向確認も確実にしている。看取りの経験は無いが、その状況となった場合、本人、家族の意向も日々変化することが予想される。安らかな最期を本人を始め関わる全ての人が迎えることができるよう、事業所の方針を理解し、かかりつけ医等の外部機関とも連携していく。家族へも日頃からの関係性の構築に努め、その時の感情に沿った支援を実践していく。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルと定期的な模擬訓練を行うことで、発生時だからこそ慌てないよう準備している。年1回以上は、普通救命講習を実施しており、有効な機器も迅速に活用できるような環境整備をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時には消防計画に則り行動することとしており、迅速かつ適切な避難誘導に向け、消防署立ち会いのもと定期的な防災訓練を実施している。併施設との連携体制も整備しており、複数の避難経路を確保することでより安全性を高めている。今後は地域との協力関係をより密接にできるような訓練を計画する。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活背景を把握し、個別性を重視したケアの提供を意識している。豊かな生活は心地良い関係性によって得られることを念頭に接遇面でも意識統一を図っている。一つひとつのケアでは必ず声かけによる同意を得ることとし、排泄介助や入浴介助でも快適な空間となるよう配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者の希望や意見を傾聴し、意見などが伝えやすい馴染みの関係の構築や言動または行動で察知できるように日々の状態観察に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた予定に沿うことは優先せず、より個別性の高いケアの実現に向け、全居室に設置している眠りスキャンシステムを活用することで、睡眠覚醒状態等を把握し、その情報に合わせた声かけや過ごし方を提案している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	場面や環境に応じた身だしなみを支援している。訪問理美容では、本人家族の希望で馴染みの美容室への外出することもあり、その方らしさを尊重することで、充実した生活に繋がっていると思われる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチン是多方面から接することができ、座位でも調理に参加できるアイランド式を導入している。実際の調理では、個々の有する能力に応じて共同で行うこととしており、役割の創出にも繋がっている。今後は利用者主体を一層意識した調理に向け献立や調理工程の検討も重ねていく。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量や状況を把握した上で、必要に応じて併設施設の管理栄養士と連携し、栄養補助食品の導入や食事形態等、個々の嗜好にも配慮した上で栄養バランスの維持向上に努めている。体調や気分に応じての摂取を促す等、個性を重視したと取り組みを実践している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前の口腔ケア及び義歯洗浄を実施することで清潔保持に努め、適宜口腔体操も取り入れている。訪問歯科に限らず、本人及び家族の意向に沿えるよう、状況に応じてかかりつけ歯科への受診支援も行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	事業所独自のチェック表を活用することで、日々の排泄状況やパターンを把握している。おむつに頼り過ぎないように、声かけのタイミングに気を配っている。トイレの設置場所や設備を充実させ、移動や立位保持等の排泄に係る一連の動作も本人の力を活用しながらサポートしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄有無のチェック表を用いながら常に状態確認を行っている。極力薬に頼らぬよう日中の運動に取り組み、水分摂取量の把握や必要に応じて乳酸菌ゼリーを活用し、適宜かかりつけ医や訪問看護へも相談している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間や順序は事前に決めず、提供時間に余裕を持たせることで、本人の希望に沿ったタイミングで実施している。皮膚状態に合わせて石鹸等の備品を使い分け、どのような身体状態であってもゆったりと浴槽に浸かれるよう、利用者の心身機能の低下に備え、リフト浴へ転換可能な設備を設けている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活リズムを把握した上で、些細な変化も察知しながら休息を促すこととしている。快適かつ心地良い睡眠となるよう、居室のベッドは超低床型で安全面に配慮し、落ち着いた色合いとマットレスも適度な感触のものを取り入れている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに服薬カレンダーを準備し、必ずセット後に二重チェックを行い、提供する際もスタッフ2名以上で声出し確認をしている。変更の際は、伝達ノートを活用し情報共有を図っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備から片付け、環境整備や水やり等の役割を持っていただいている。今後はそれらの習慣を通して新たな役割の創出に繋げる必要がある。趣味活動への働きかけは実施しているが、個性を踏まえた内容には至っていない。趣味や特技を通して生き生きとした日常となるよう柔軟な発想で取り組む必要がある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園等への散歩や併設施設へ出向き、職員や利用者と交流する機会を設けている。定期的な外出行事を実施し、内容も本人や家族からの希望に沿って企画している。今後は家族も同伴できる機会を設けていきたい。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食の際は、品物の選定から支払いまで本人のペースで行えるよう支援しているが、そこに安心感や楽しみが表出しているかの確認ができていない。単なる買い物ではなく、そこに目的を持って支援できるよう職員は意識する必要がある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話で会話できる機会を設け安心感に繋げている。手紙については書く発想には至っておらず、受け取るのみの状況であるため、本人の意向を確認しながら、その機会を設けることで満足感や家族との更なる関係性の向上に繋げたい。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室と共用部に中庭を挟むことで個別と集団のメリハリをつけた構造としている。リビングには日中温かい陽射しが差し込み、室内の装飾も温かみがある色彩で統一している。家具類も使い心地を重視し、集まりやすい雰囲気意識している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部とは別に多目的室を設け、独りの時間や家族等と過ごせるスペースとしている。宿泊も可能な備品も設置しており、本人と家族が大切な時間を過ごせるよう配工夫している。。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みのものを配置していただき、落ち着ける居室空間となるよう心掛けている。基準よりも広い居室面積とすることで、閉塞感のない造りとし、こまめな清掃や24時間換気にて清潔な空間を保持している。出窓や室内外の収納を充実させ、少しでも多く本人が希望する備品等を保管できるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自力歩行の維持に向け、建物全体に動線を考慮した手すりを設置し、共用部と居室間の廊下にベンチを設けている。トイレは設置数と設置間隔を手厚くし、可動式の手すり等の設備を充実させ、排泄に係る一連の動作のサポートに活用している。ベッドの可動式サイドバーは、自力での移乗や立位の補助として活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない